

鳥取県におけるイヌワシの繁殖状況

上野吉雄¹⁾*・石井秀雄²⁾・北岡享一³⁾・加藤淳司⁴⁾・安田亘之⁵⁾

¹⁾ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・²⁾ 広島県立西条農業高等学校・³⁾ 鳥取県米子市・
⁴⁾ 建設環境研究所・⁵⁾ 米子野鳥保護の会

The Breeding status of Japanese Golden Eagle *Aquila chrysaetos* in Tottori Prefecture

Yoshio UENO, Hideo ISHII, Kyoichi KITAOKA, Junji KATO and Nobuyuki YASUDA

はじめに

イヌワシ *Aquila chrysaetos* は北半球の草原や灌木林などの開けた地域に広く生息し、翼を広げると 2m 近くある大型の猛禽である。6 亜種に分けられ、その中で亜種イヌワシ *Aquila chrysaetos japonica* は最も小さく、日本の森林環境に適応して小型化したといわれている (Watson 2006)。亜種イヌワシは朝鮮半島と日本のみに生息し、国内には約 500 羽程度しか生息していないとされ (日本イヌワシ研究会 2001)、天然記念物や国内希少野生動物種に定められている。また、環境省により絶滅危惧 IB 類に、広島県、鳥取県、岡山県により絶滅危惧 I 類に、島根県により情報不足に選定されている (環境省「報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について」<https://www.env.go.jp/press/105504.html> 2018 年 8 月 1 日確認, 石井 2012, 岡垣 2012, 丸山・山田 2009, 島根県 2014)。

鳥取県内に生息するイヌワシに関しては 1972 年から 1991 年までの調査結果について塩村が報告している (塩村 1992)。しかし、その後の鳥取県内におけるイヌワシの生息状況の報告は見あたらない。筆者らは、2008 年から 2018 年にかけての 10 年間、鳥取県におけるイヌワシの繁殖状況を調査したので報告する。表 1 に 2008 年から 2018 年にかけての鳥取県のイヌワシの繁殖状況について示す。

1. 営巣地 1

県中部の営巣地で、1972 年から 1991 年にかけてヒナの巣立ちが 15 回確認されているが (塩村 1992)、今回の調査ではヒナの巣立ちは確認されなかった。筆者らが調査を始めた 2008 年、2009 年はつがいで生息しており、交尾や抱雛が確認された (図版 1-A・B)。2010 年から 2012 年にかけてはオス単独となり、1 羽で造巣していた。2013 年から 2014 年にかけては営巣地 1 (以下、営 -1) でイヌワシの出現を確認できず、営 -1 のオスは約 11km 離れた営巣地 2 (以下、営 -2) に移入し、営 -2 のつがいオスと入れ替わった。2013 年から 2015 年にかけては営 -1 のオスは営 -2 のメスとつがいになり、営 -2 で造巣をしたが、抱卵は確認されなかった。2016 年から 2018 年にかけては営 -2 にいたつがいが営 -1 に移入してきて造巣・交尾したが (図版 1-C・D)、抱卵は確認されなかった。つがい生息の 5 年間でふ化は 1 回で、オスは営 -2 に移入後、営 -2 のメスとつがいになり営 -1 に帰還した。

2. 営巣地 2

県中部の営巣地で、1976 年から 1984 年にかけてヒナの巣立ちが 7 回確認されているが (塩村 1992)、今回の調査でヒナの巣立ちは確認されなかった。筆者らが営 -2 でイヌワシのつがいを確認したのは 2011 年で、営巣地から約 10km 南西で確認した (図版 1-E・F)。2012 年 6 月には営巣地でつがいを確認し、稜線近くで交尾も確認した。2013 年には営 -1 のオスが移入し、つがいオスと入れ変わった。2014 年から 2015 年にかけては、つが

表1 鳥取県におけるイヌワシの繁殖状況 (2008 - 2018) ○：繁殖成功, ×：繁殖失敗

	営巣地1	営巣地2	営巣地3	営巣地4
繁殖成績	つがい生息の5年間でふ化1回。オスは営-2に移入後、営-2のメスとつがいになり、営-1に帰還。	つがい生息の4年間で産卵無し。メスは営-1のオスとつがいになり、営-1に移入。	つがい生息の10年間で巣立ち4回。	つがい生息の4年間で巣立ち1回。
2008	× 交尾確認	—	—	—
2009	× 抱雛? 3・4月に若鳥出現	—	2月28日につがい確認	—
2010	× メス消失オス単独で造巢	—	×	—
2011	× オス単独でディスプレイ	9月25日に約10km南西でつがい確認	×	—
2012	× オス単独で造巢	6月2日につがい確認	×	—
2013	× 出現なし	× 営-1のオスが移入し、一時オス2羽となるが、もとのつがいオスが消失	○	—
2014	× 出現なし	× つがいで造巢	○	—
2015	× 成鳥1羽と若鳥1羽出現	× つがいで造巢	× 抱卵確認 4月雛死亡	5月3日に3羽確認
2016	× 営-2のつがいに移入し、造巢	× 出現なし	×	○ 11月に当歳の幼鳥とオスの連れ立ちの写真あり
2017	× ペアで造巢	× 出現なし	○	× つがいで造巢
2018	× ペアで造巢	× 出現なし	○	× つがいで造巢

いで造巢をしたが (図版 1-G・H), 抱卵は確認されなかった。2016年3月までつがいを確認し、オスは2016年4月まで単独で確認した。2017年から2018年にかけてはつがい営-1に移動したため出現がなかった。つがい生息の4年間で産卵せず、メスは営-1のオスとつがいになり、営-1に移動した。

3. 営巣地3

県西部の営巣地で、2008年までオスが1羽で生息していた。2009年にメスが移入し、つがいを形成した (図版 2-A・B)。2011年と2012年は繁殖活動を行ったが、ヒナは巣立たなかった。2013年はヒナが巣立ち (図版 2-C), 2014年もヒナが巣立った (図版 2-D・E・F・G)。営-3の2013年から2015年にかけての繁殖状況の詳細についてはすでに報告した (上野ほか 2017)。2015年から2016年にかけては繁殖に失敗した。2017年と2018年は連続して繁殖に成功し (図版 3-A・B・C・D), 2017年には幼鳥にサギを運ぶオスを確認した (図版 2-H)。つがい生息の10年間で巣立ちが4回確認できた。

4. 営巣地4

県東部の営巣地で、1973年から1990年にかけてヒナの巣立ちが7回確認されているが (塩村 1992), 今回の調査でヒナの巣立ちが1回確認された。

2015年に3羽のイヌワシを確認した。2016年11月に当歳の幼鳥とオスの連れ立ちの写真が撮影されており (図版 3-G・H), 繁殖が成功したと推察される。2017年から2018年にかけてつがいで造巢が確認されたが (図版 3-E・F), ヒナの巣立ちは確認されなかった。

以上、筆者らの調査で鳥取県のイヌワシの繁殖状況が営巣地3を除いてきわめて悪いことが明らかになった。近年の中国地方におけるイヌワシの繁殖成功率の急激な落ち込みの原因については様々な原因が考えられるが、採草地や茅場、放牧などの目的で維持されていた半自然草原の消失により、イヌワシの展葉期の狩場の減少も一要因

であると考えられる。行動圏内に離れて分布している放牧跡地などでハンティングし、成鳥が生存できるのみとなっていると推察される（大竹ほか 2018）。これらのことを踏まえて今後、イヌワシの保全計画を策定し、実行されることが強く望まれる。

謝辞

本研究の遂行にあたり、調査にご協力いただいた荒谷建設コンサルタントの吉津祐子氏、中電技術コンサルタントの大竹邦暁氏、北広島町の山本 茂氏、津山市の柳瀬美幸氏、松江市の森 孝之氏、広島市の藤野 徹氏、県東部のイヌワシの情報を提供していただいた広島市の末宗政博氏と姫路市の山岡 弘氏、県中部のイヌワシの情報を提供していただいた神石高原町の油野木公盛氏のみなさまに心からお礼を申し上げる。

引用文献

- 石井秀雄（2012）イヌワシ．広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）－レッドデータブックひろしま 2011－：64．広島県
- 丸山健司・山田信光（2009）イヌワシ．岡山県版レッドデータブック 2009－絶滅のおそれのある野生生物－：63．岡山県環境文化部自然環境課
- 日本イヌワシ研究会（2001）全国イヌワシ生息数・繁殖成功率調査報告．*Aquila chrysaetos* 17：1-9
- 岡垣大志（2012）イヌワシ．レッドデータブックとっとり改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－：47．鳥取県生活環境部公園自然課
- 大竹邦暁・上野吉雄・石井秀雄・北岡享一・加藤淳司・山本茂柳・柳瀬美幸・森 孝之・藤野 徹・安田亘之・中越信和（2018）中国地方におけるイヌワシの展葉期の狩場．*高原の自然史* 18：51-55
- 塩村 功（1992）鳥取県におけるイヌワシの生息状況．*Aquila chrysaetos* 9：69-72
- 重田芳夫（1979）東中国山地のイヌワシ 東中国山地自然環境調査報告書．氷ノ山・後山・那岐山国立公園三県協議会，兵庫県・岡山県・鳥取県
- 島根県（2014）イヌワシ．改訂・しまねレッドデータブック 2014 動物編－島根県の絶滅のおそれのある野生動物－：65．島根県環境生活部自然環境課
- 上野吉雄・石井 秀雄・加藤 淳司・北岡享一・安田 亘之（2017）中国地方におけるイヌワシの繁殖．*高原の自然史* 17：19-34
- Watson, J. (2006) イヌワシの生態と保全．文一総合出版

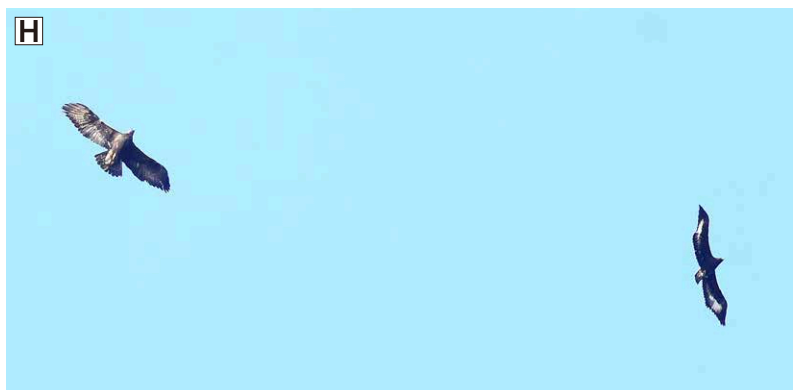


A: 営巣地 1 のオス
 B: 営巣地 1 のメス (2010 年に消失)
 C: 営巣地 1 のつがい (交尾)
 D: 造巣する営巣地 1 のオス (A と同一個体)
 E: 営巣地 2 のオス (営巣地の 10km 南西・2013 年に消失)
 F: 営巣地 2 のメス (営巣地の 10km 南西)
 G: 営巣地 2 のメス (F と同一個体)
 H: 営巣地 2 のつがい (営巣地 1 と同一つがい)

2008 年 3 月 22 日
 2008 年 3 月 22 日
 2016 年 1 月 31 日
 2016 年 5 月 5 日
 2012 年 8 月 25 日
 2012 年 9 月 16 日
 2014 年 1 月
 2014 年 1 月



A: 営巣地 3 のオス	2014 年 3 月 31 日
B: 営巣地 3 のメス	2014 年 7 月 6 日
C: 営巣地 3 の幼鳥 (2013 年生まれ)	2014 年 2 月 25 日
D: 営巣地 3 の幼鳥にノウサギを運ぶメス	2014 年 6 月 29 日
E: 営巣地 3 の幼鳥 (2014 年生まれ)	2014 年 7 月 6 日
F: 営巣地 3 の幼鳥 (2014 年生まれ)	2014 年 8 月 1 日
G: 営巣地 3 の幼鳥 (2014 年生まれ) 追い出し行動	2014 年 12 月 14 日
H: 営巣地 3 の幼鳥にサギを運ぶオス	2017 年 8 月 6 日



A: 営巣地 3 の幼鳥 (2017 年生まれ)	2018 年 2 月 4 日
B: 営巣地 3 の幼鳥 (2017 年生まれ) 追い出し行動	2018 年 2 月 4 日
C: 営巣地 3 の幼鳥 (2018 年生まれ)	2019 年 1 月 20 日
D: 営巣地 3 の幼鳥 (2018 年生まれ) 餌渡し行動	2019 年 1 月 20 日
E: 営巣地 4 のオス	2017 年 10 月 10 日
F: 営巣地 4 のメス	2017 年 10 月 10 日
G: 営巣地 4 の幼鳥 (2016 年生まれ)	2016 年 11 月 27 日 (撮影: 山岡 弘)
H: 営巣地 4 のオスと幼鳥 (2016 年生まれ)	2016 年 11 月 27 日 (撮影: 山岡 弘)